



高津区学芸大会

令和6年11月21日（木）、11月22日（金）に、高津市民館ホールにて、高津区学芸大会が行われました。1日目には6校、2日目には3校が集まり、練習の成果を發揮し、のびのびと表現する子どもたちの素晴らしい姿が見られました。協議会では、練習の工夫やご苦労、表現活動を経ての子どもたちの変容などをうかがうことができ、感想や意見交流など、有意義な時間を過ごすことができました。熱心にご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。また、運営に際しまして、ご理解ご協力いただき、感謝申し上げます。

1 日 目 1 1 月 2 1 日 (木) 午 前 の 部

『自分発見！友達発見！Let's Try』

梶ヶ谷小学校 4年生

音楽、和太鼓、ダンス、縄跳びなど子どもたち一人一人が得意なことを生かして活躍する姿が光っていた。タイトル通り、学校という日常生活を舞台にして自分や友達によさに気づいていくことができる劇だった。

『高津 ごみバスターズ ～高津愛でまちをきれいに～』

高津小学校 4年生

劇を通して子どもたちの地域を大切に思う気持ちが伝わってくる内容だった。総合の学習を生かし、子どもたちが歌詞を考えたオリジナル曲が劇を盛り上げていた。一人一人が自分の役に自信をもち、体をいっぱい使って堂々と演じる姿が素晴らしかった。

『西梶ヶ谷小学校 ビリーブ～未来にかけの橋～』

西梶ヶ谷小学校 4年生

川崎市制100周年と絡めて、地域の100年後について考える内容の創作劇。今の行動が未来を形作っていくということに改めて気づかされる内容だった。よりよい未来や仲間を信じて行動する子どもたちの姿が感動的だった。

〈指導講評〉

川崎市立稗原小学校教頭 大森 由香里

どの出演校も地域や校風を生かし、オリジナリティあふれる内容でした。指導者の皆さんが子どもたちの成長を見通して時間を生み出し、子どもたちと一緒に創り上げる過程を大切にされ、力を注いでこられたことが伝わってきました。劇づくりで友達との関る中で、コミュニケーションの力も育まれたことと思います。学芸大会で互いの表現を見合う活動を通して感想を伝え合うなど、学校間の交流もより深まるとよいですね。

1 日 目 1 2 月 2 1 日 (木) 午後 の 部

『知ってる？ゴミの変身術』

坂戸小学校 4年生

出前授業で生ゴミコンポストについて学習した経験や、合唱が盛んな校風を生かした創作劇。冒頭の歌声で観客を引きつけていた。日頃から合唱で鍛えられた発声をつかってせりふもはっきり聴き取りやすく、観る人に内容がしっかりと伝わった。

『明日へ向かって』

久末小学校 4年生

動きや衣装、子どもたちのきらきらの笑顔がすてきだった。演技で笑いが起きるなど会場も一体になって楽しんでいった。音楽の学習をいかしたボイスアンサンブルがとても効果的で舞台の雰囲気盛り上げていた。AIによる作曲など新たな試みも取り入れられていた。

『咲かせよう 私たちのハナミズキ』

久本小学校 4年生

学校にあるハナミズキの木をテーマに、お囃子、ダンス、手話を生かして子どもたちが目標に向かっていくストーリー。親しまれている学校のゆるキャラが登場したり、ボードを使ってハナミズキの花が咲いていく様子を表現したりするなど、工夫を凝らした演出だった。

〈指導講評〉

児童文化研究会元会長 千野 隆之

本格的なステージに立ち、演劇をすることはおそらく多くの人にとって一生に一度しかない大変貴重な体験でしょう。演劇的な活動は教育課程にはありませんが、人間力を養うことにおいて大変効果的であることが科学的にも実証されています。今回の取り組みを通して子どもたちがどのような力をつけたのかを価値づけ、ぜひ子どもや保護者、職場のみなさんとも共有してください。「大変だったけど出てよかった」と実感していただけたら嬉しいです。

2 日 目 1 1 月 2 2 日 (金) 午前 の 部

『高津 ごみバスターズ ～高津愛でまちをきれいに～』

高津小学校 4年生

歌、演技、楽器、ダンスと様々な表現方法で発表し、社会科で学んだ事を基に「ごみを減らす」というメッセージがこめられていた。学習した事を個人ではなく、みんなで発表するモデルとなった。互いに見合っただけで学ぶ事ができる2グループに分けた良さを生かしていた。

『ぼくらの進級試験』

上作延小学校 4年生

それぞれのグループの一体感が良かった。また台詞のない子どもの相手に対する反応も自然で、子どもたちが演技を楽しんでいたことにより自然と会場が盛り上がりつついった。最後の歌は、パワー全開で会場が一体になっていた。

『ごんぎつね』

東高津小学校 4年生

シュプレヒコール形式で、全員が舞台上で色画用紙を使って各場面の情景を表現しており見事だった。また一人一人が自分の音、声、色にして役割を果たしていた。歌声の強弱が素晴らしく、場面に応じた声色で表現し全員の声に一体感があり声一つになっていた。

〈指導講評〉

児童文化研究会元会長 古賀 千穂

今回の学芸大会を通して、子どもたちがつけた力は沢山あると思います。表現する力はもちろん、人の表現を受け取る力、見る人の事を考える力。それらは、これから先、子どもたちが学校だけでなく、その先の社会を生きていく上で、必要な力です。学芸大会や学習発表会だけでなく、学校生活の中でこういった表現活動を、これからもぜひ行って欲しいと思います。